第１章　はじめに

奈良文化財研究所は平城宮跡の発掘調査を半世紀にわたり継続している。これまで膨大な調査資料が蓄積され分析、研究が進められてきた。墨書土器についても、年次ごとの調査概報において公表してきているが、その後の資料整理の過程で明らかになることも少なくない。正式な発掘調査報告書にさきだって『平城宮出土墨書土器集成』（以下『集成』と略称）を刊行してきた経緯は、墨書土器の文字資料としての史料的価値を重視するためである。各調査の詳細な遺構の検討や他の出土遺物などを総合した研究成果は、将来刊行される発掘調査報告書の中で報告する予定である。

『平城宮出土墨書土器集成Ⅲ』は平城宮跡発掘調査部による第170次から第316次までの平城宮内の調査で出土した墨書土器を集めた。第170次以降の調査は東区朝堂院地区、造酒司地区、東院地区、壬生門北方の兵部省・式部省地区、第一次大極殿院地区西半を中心に実施してきた。本資料集には「刑部省」「式部省」や「宮内省」など、官衙の性格を追求するうえで重要な資料を含む1017点を掲載した。

すでに第２次から第101次調査で出土した1070点を『集成Ⅰ』（奈良国立文化財研究所史料第25冊）に、その補遺を含めて第104次から第167次調査出土の1145点を『集成Ⅱ』（奈良国立文化財研究所史料第31冊）に収録しており、本資料集をあわせると3232点を報告したことになる。

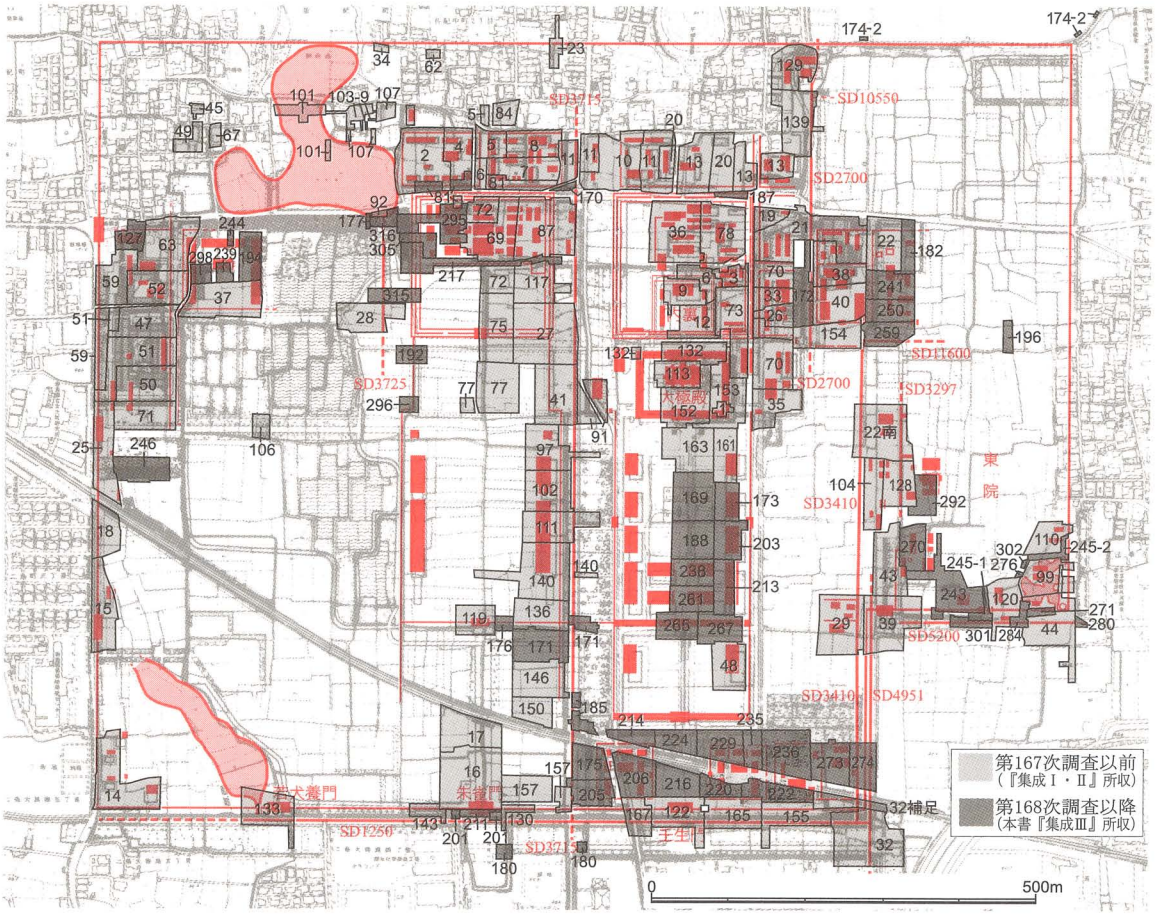

Fig. 1　平城宮跡の既発掘調査区（数字は平城宮跡発掘調査部による調査次数）